

平成 31 年度 野生鳥獣との共存に向けた生息環境等整備調査（屋久島地域） 報告書概要版

（１）生息密度調査（糞粒法）

【調査内容】

ヤクシカの生息状況を把握するために糞粒法による調査を 5 地点で行い、ヤクシカの生息密度の変化等を取りまとめた。

【調査結果】

- ・増加：大川林道奥、やや増加：尾之間下、減少：一湊林道、愛子東、宮之浦林道
- ・捕獲効果が表れた箇所（一湊林道、愛子東、宮之浦林道）がある一方、捕獲を続けていても増加傾向が見られる箇所（大川林道）があった。ヤクシカの流入や捕獲を免れた個体の繁殖の可能性はある。

（２）ヤクシカの移動状況等調査（GPS テレメトリー法）

【調査内容】

ヤクシカ 1 頭（雌、成獣）に GPS 首輪を装着し、移動経路追跡調査を実施するとともに、利用頻度の高いルートについて食害等の現地調査を実施した。

【調査結果】

- ・行動圏は、西部林道の上側斜面から斜面下側に向かった緩傾斜地～平坦地までの約 500m の狭い範囲で、昼夜を通して林道下の半山集落跡地を活動の場としていた。
- ・周囲は裸地か不嗜好植物だが、痕跡から採餌するものを選択していることが分かった。

（３）植生の保護・再生手法の検討

① 植生保護柵の保守点検

【調査内容】 既存植生保護柵 28 箇所の維持管理。

【調査結果】

- ・台風の直撃等がなく、改めて修理を必要とする大規模な破損被害は生じていなかった。

② マテバシイ萌芽枝の生育状況

【調査内容】 柵内外のマテバシイ母樹、萌芽枝、及びカシノナガキクイムシの穿入痕調査。

【調査結果】

- ・ほとんどの株でカシノナガキクイムシによる穿孔被害は減少し、台風等の被害はなく萌芽枝の芽吹きは増加していた。一方、柵外ほどの株もヤクシカの食害を受けていた。

③ 植生保護柵内外の植生調査

【調査内容】 柵内外の小プロットで、低木層と草本層について植物社会学的調査を実施。

【調査結果】

- ・捕獲が行われている愛子東では、出現種数・実生本数とも柵内外であまり変化が見られなくなっていた。
- ・不嗜好植物種の出現割合については、カンカケ 200m を除いて、柵内の方が高い傾向が見られた。

④ 植生被害ライン調査

【調査内容】

5 地点（一湊林道、愛子東、尾之間下、大川林道奥、宮之浦林道）において、1km の範囲で 50m 毎に植生被害の判定を行った。また、1 km の範囲内の一部で希少種の被害の有無、被害部位を調査した。

【調査結果】

- ・全体的に種数・本数が減少し、被害本数が増加しており、森林の更新が懸念された。

(4) 森林生態系管理の目標の設定

【調査内容】

森林生態系の管理目標について、現状の把握と評価、及び具体的な指標案、目標達成状況の把握方法案の検討を行った。

【調査結果】

- ① 屋久島の多雨環境を反映したシダ植物の林床被度の回復
 - ・植生保護柵外のシダ植物の被度を柵内の被度の 50%に回復させることを指標案とし、実際に柵内外の被度を定量的に比較した結果、多くの地域において目標となる状況には至っていなかった。
- ② 屋久島世界自然遺産の顕著な普遍的価値である植生垂直分布の多様性の回復
 - ・各標高帯において 2000 年代の植物種数に回復させることを指標案とし、植生垂直分布調査結果から各標高帯の近年の出現種数を 2000 年代の種数と比較した結果、東部と西部は目標となる状況に至っていなかったが、南部、北部、中央部では目標は概ね達成している状況にあった。
- ③ ヤクシカの嗜好性植物種の更新
 - ・ヤクシカの嗜好性植物種の種数、被度を回復または維持増加させることを指標案とし、植生垂直分布調査結果から種数と被度の変化を整理した結果、各地域とも目標となる状況には至っていなかった。
- ④ 絶滅のおそれのある固有植物種等の保全
 - ・既往調査地において絶滅のおそれのある固有植物種等の生育確認箇所数・個体数を過年度から維持・増加させることを指標案とし、指標種として選定した種の確認箇所数・個体数の変化を整理した結果、多くの種において目標となる状況には至っていなかった。

(5) 高層湿原におけるヤクシカの生態調査

① 自動撮影カメラ

【調査内容】

高層湿原（花之江河・小花之江河）におけるヤクシカの生態を把握するため、夏季から冬季にかけて自動撮影カメラ 10 台を 20 週間以上設置し、出現頭数、性別等を整理した。

【調査結果】

- ・花之江河で夏季から秋季にかけて多くのヤクシカが確認された一方、小花之江河では、5 台中 3 台のカメラで秋季から冬季にかけて多くのヤクシカが確認された。これは、水路を恐れず渡ったり、採餌場として利用したりする個体が増加したためと考えられる。

② 糞塊調査

【調査内容】

湿原内を冠水状況（常時冠水域、降水時冠水域、無冠水域）と植生群落状況（ミズゴケ群落、コハリスゲ・ハリコウガイセキショウ群落）に区分し、花之江河 33 箇所、小花之江河 22 箇所にて糞塊調査を 8 月・11 月に実施した。

【調査結果】

- ・8 月・11 月とも花之江河のほうが小花之江河よりも糞塊数が多かった。
- ・11 月の調査で、花之江河は過去最も多い糞塊数を記録した。台風シーズンが終了する 11 月は、ヤクシカが湿原を多く利用していると考えられた。